

大田区自立支援協議会 相談支援部会要旨

文責：中越（障がい者総合サポートセンター一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 相談支援部会（第 10 回）		
(2) 開催日時	平成 29 年 2 月 1 日（水）9:30～12:00		
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5 階多目的室		
(4) 出席した委員、事務局	委員（部会長：森山委員）		
	志村 陽子	宮澤 勇	古怒田 幸子
	岡田 純子	平井 有希子	鈴木 啓太
	田中 隆博	今崎 牧生	栗田 総一郎
	大窪 恒	中越 祐一	
	区職員出席者 大谷係長（大森地域福祉課） 高木係長（調布地域福祉課） 高庭係長（蒲田地域福祉課） 七尾係長（糎谷・羽田地域福祉課） 梅實係長（調布地域健康課） 井上係長（上池台障害者福祉会館）		
	関係者 神作 彩子（障がい者総合サポートセンター副統括） 林 倫子（障がい者総合サポートセンター相談支援部門）		
	事務局出席者 障がい者総合サポートセンター：江波戸係長、星、齋藤（愛）		
(5) 内容・要旨	1、2 は省略 3、確認事項 ○司会・書記の確認 ○前回の議事録、意見出しカードの内容確認 ○個別支援会議の報告 当事者が参加し、委員からの「色々な意見、考えてくれる、言葉かけ」があったことへの評価あり。今後も当事者が参加する機会を設けられるとよい。 ○事務局から ・2月6日、全体協議会の実施案内。 ・2月15日、さぼーとぴあにおける福祉避難所開設訓練の実施案内。 10時から参加可能のため、希望者は計画担当に要連絡。 ・東京都自立支援協議会の傍聴案内。 ・第三回の本会案内。3月2日（木）13時から15時30分まで。 部会のみ委員は20名まで傍聴可能のため、希望者は計画担当に要連絡。 4、本日の議題 ○「自立支援協議会 第三回本会年間のまとめ」について ・本会提出資料の検討 ・資料を確認しながら内容及び文言調整を実施。 5、その他 ○自立支援協議会のあり方について(第3回運営会議会議録から)		

・大田区障害福祉課長より、組織体制変更についての提案があった。全体討議会の廃止、役員会議と運営会議の統合、円滑な会議運営を図るため部会委員の人数の調整を行う。

意見：

・これまでの協議会の経緯に対する評価を行うべき。課題は多岐にわたる中でいろいろな意見を聞くことが参考になっている。

・具体的な検討、ネットワークの強化を目的に減員することが必要なのか。人員の選考等はどのように行うのか。自立支援協議会は地域の声を反映させるべきなのに、円滑な会議を行うことを目的とすることに対しては理解しづらい。

・全体討議会の廃止について詳しく説明してほしい。

→同じメンバーで同様の討議がされているとの指摘あり。手ごたえのある部会の運営を行うことが会長の意向である。

・部会長の負担増となるのではないか。

○委員の感想や次年度に向けての意見

・相談支援は本人中心として捉え今後も取り組みたい。

・障害者支援を考えるならば現場を知るべきなので、体制減は納得できない。

・地域課題の抽出から、地域課題がなるべく減るようにしたいが、時間のかかるものと実感する。個別支援会議の課題を般化させることの必要を感じる。タウンミーティング等で抽出できるようになるとよい。

・相談部会に参加し、流れを見ることができた。議論についていけない部分が多いが、当事者家族としての思いと事業所としての思いのすり合わせができるとうい。次年度、連絡会と一緒に事例検討を行えるとよい。

・部会委員の削減等の話があるが、経験、力不足があるため、それ相応の委員であるべきで、選考方法等の良い検討機会となると思う。

・個別支援会議の重要性を感じた。地域課題抽出、般化の機会、当事者の参加、検討の機会となった。次年度も継続したい。

・これまで目の前の方の支援に終始しがちだが、地域課題と現状、今後の形を検討していけるという新たな視点を得た。個別支援会議は重要な機会である。

・自立支援協議会は連続性があるので、その時々課題に取り組んで行きたい。

・職種が様々な参加者の中でいろいろな意見を聞けることが新たな視点を得ることもあり有意義であった。

・成年後見センターでは高齢者の関りが多く課題もあるが、出会いを大事にしながらか連携していきたい。

・現場サイドとして、ヘルパー不足は危機的な状況にある。色々な意見を言いながら、新たな連携を考えていきたい。

・個別支援会議は長年の積み重ねを経て、回ごとに充実を感じる。役員会議とのやり取りが重要。プランへの反映を目指すのであれば、提言のできる仕組みとなるとよい。

・困難ケースに孤軍奮闘し孤独であったが、個別支援会議などを通して、行政として相談できる場所があるのは大変うれしく思う。ネットワークを大事にし

	<p>ていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・個別支援会議に参加して、ストレングスの視点として捉えることが印象的であった。視点転換ができてきたと思われる。・個別支援会議の重要性を感じている。プランについて、当事者が意見を述べる機会は衝撃的であった。これまで上から目線でサービスを組み立てていたのではと自戒の機会ともなった。・相談支援は今に始まったことでなく、話を聞くだけでも解決はしない。色々な課題がある中で、人の大切さを日頃から感じている。ご本人の望む生活を目指して取り組んでいきたい。・自立支援協議会の組織図から地域の支えがあることを改めて感じた。福祉避難所について、場所の確認ができた。・現場として目の前しか見えないこともあり、地域資源等分かったことも多い。・徐々に具体的に話が進むようになったと思う。継続的な課題とすることでこれからも取り組めていけるとよい。構成人数よりも工夫により意見が活発になるようにすればよいと思う。・これまでの歴史から獲得してきたことがあるという認識を持っている。今後、次はどう引き継ぐかを考えていきたい。
--	---